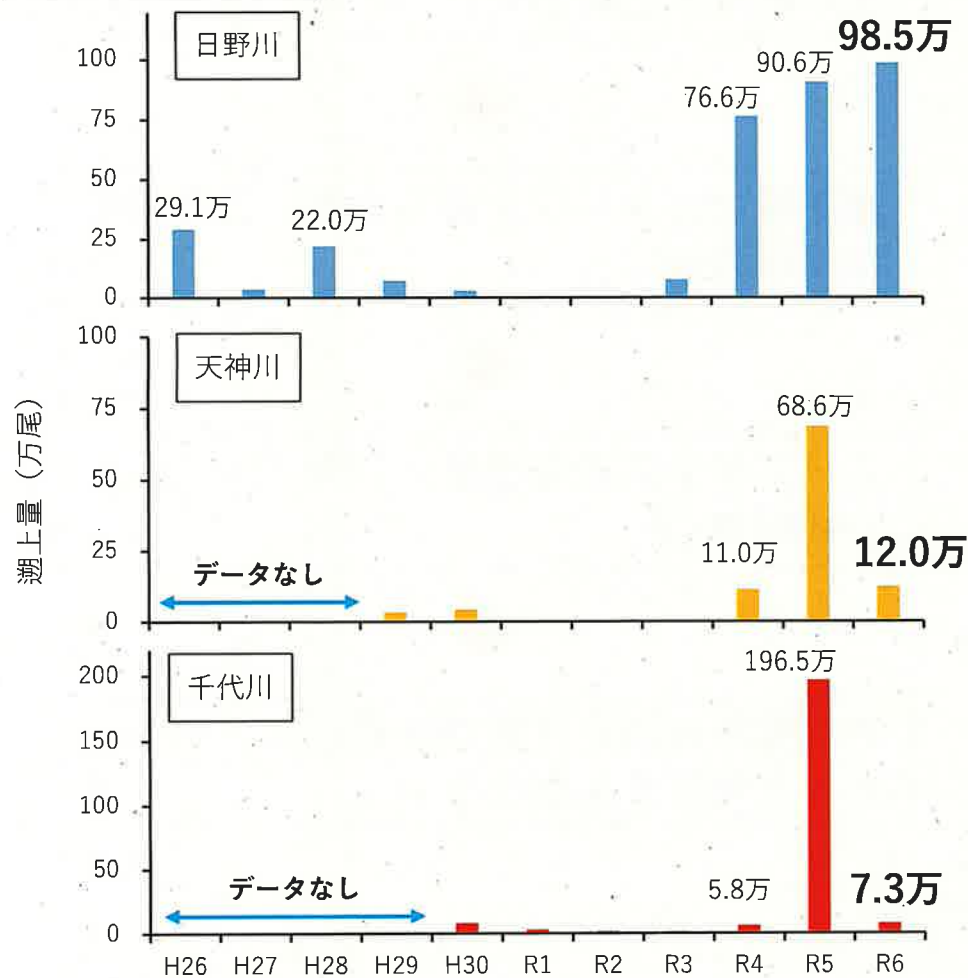


1) 令和6年における県内河川のアユ遡上状況

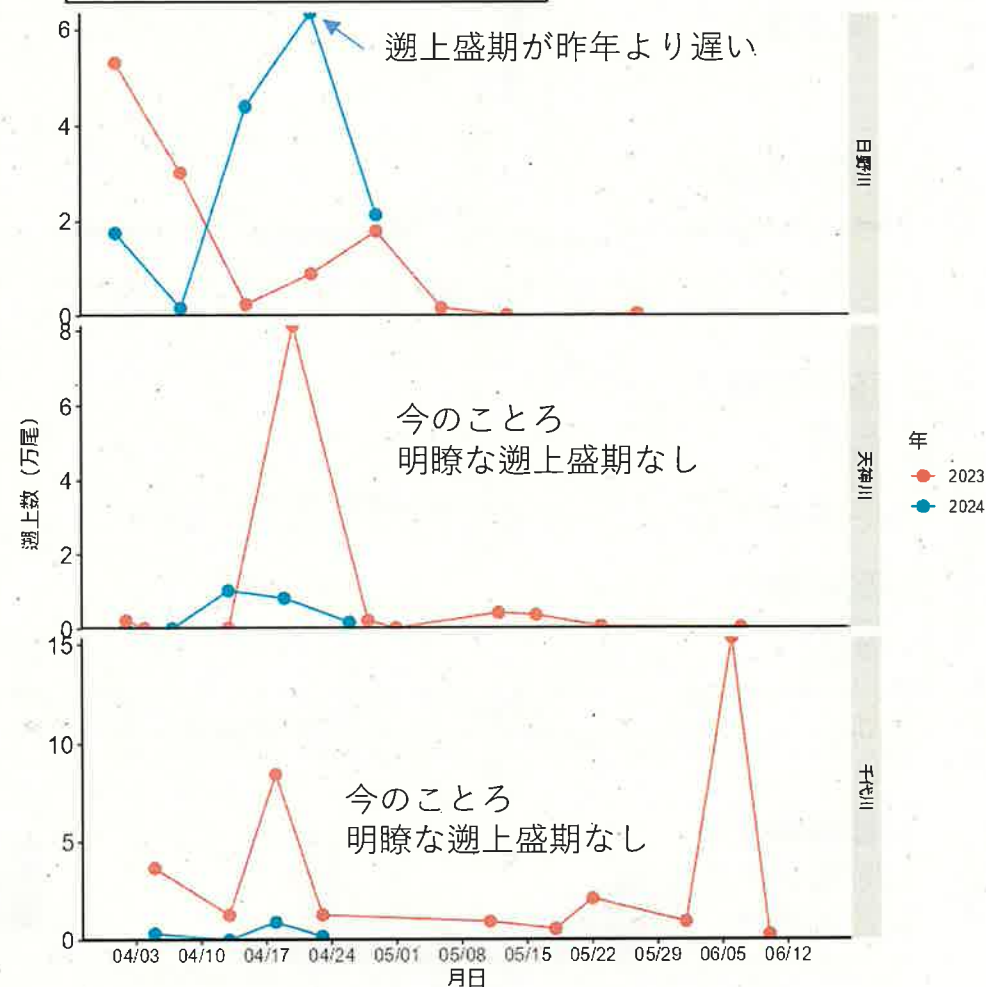
資料-4

鳥取県内で漁協がある河川における4月～6月上旬の遡上状況
(R6は4/1～4/30現在の値)

年別アユ遡上数



調査時に観察されたアユ

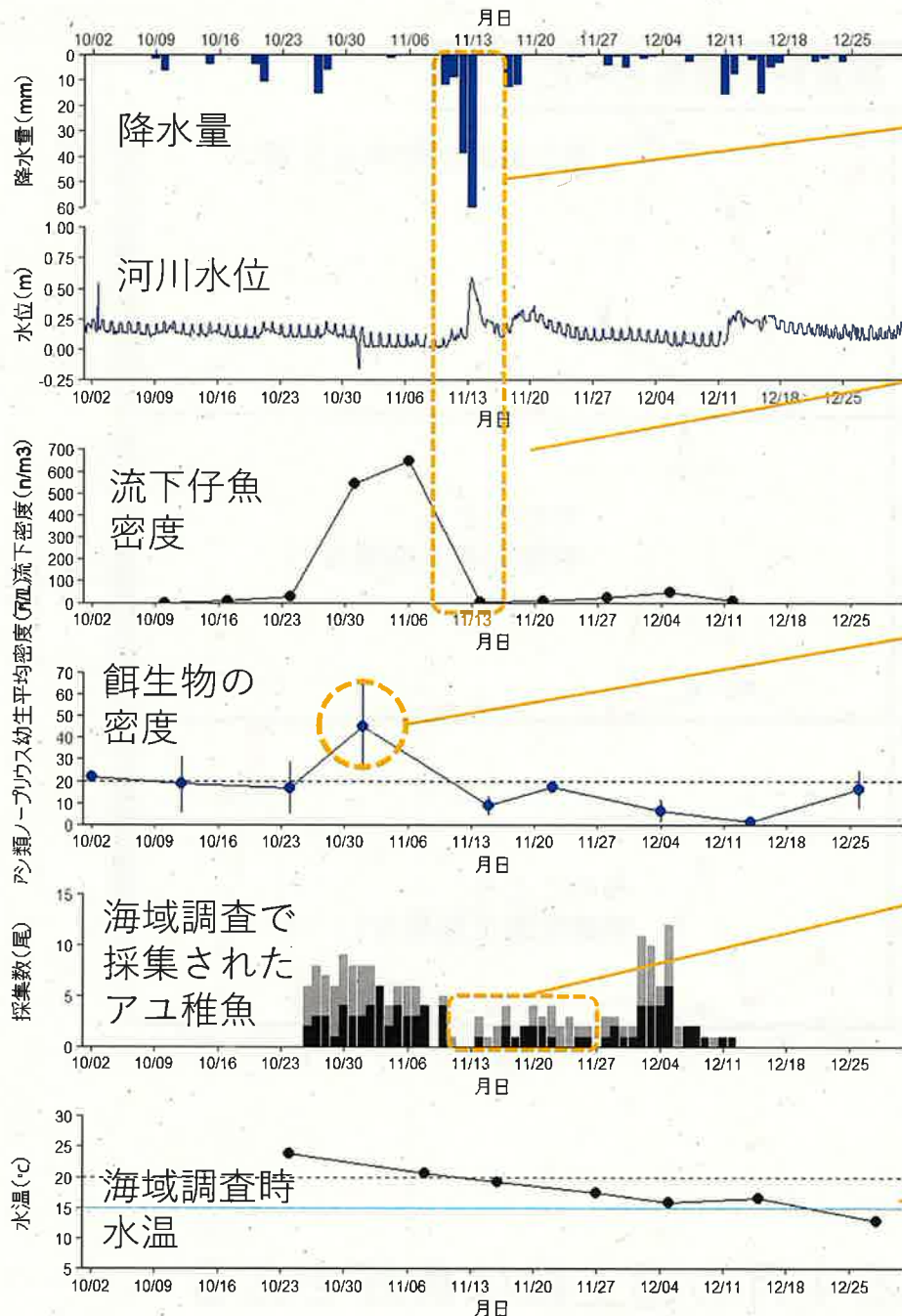


従来より少し遅い時期に産卵場を造成

⇒ (西高東低だが) 県内河川における4月の遡上数は良好である¹

2) 日野川・美保湾におけるアユ仔稚魚

前年の産卵～海洋生活期の状況



11月中旬にまとまった降雨があり、
河川水位が上昇した。



産卵場にダメージがあったか、流下仔魚
密度が激減



ノープリウス幼生密度は10月下旬に
>40個体/ℓ



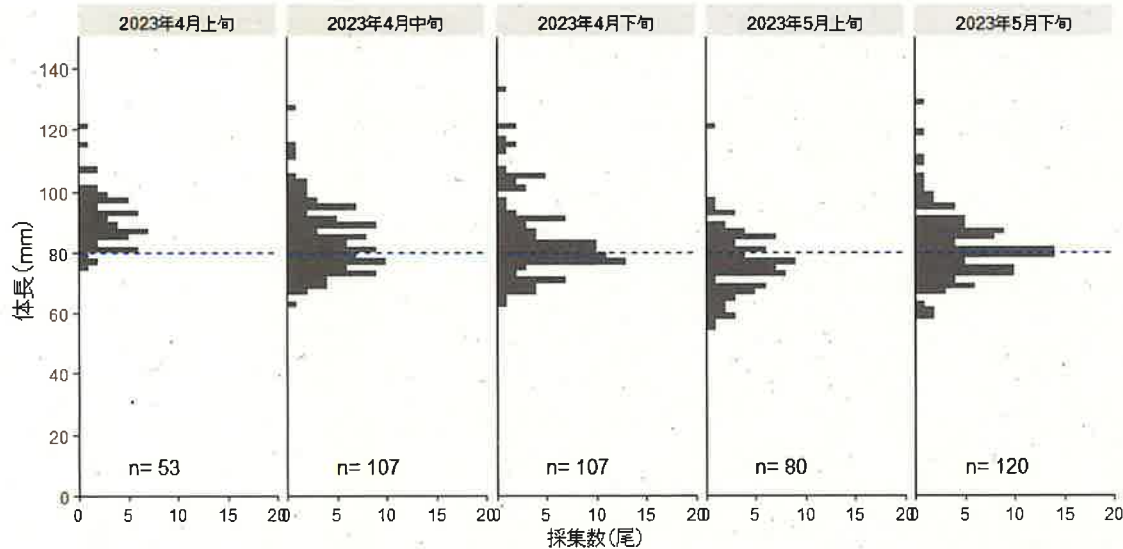
アユ稚魚の孵化日組成を見ると、11月
中・下旬生まれが少ない

水温が20°C以上でも餌が豊富なら生残？
水温が15°C程度なら餌が僅かでも生残？

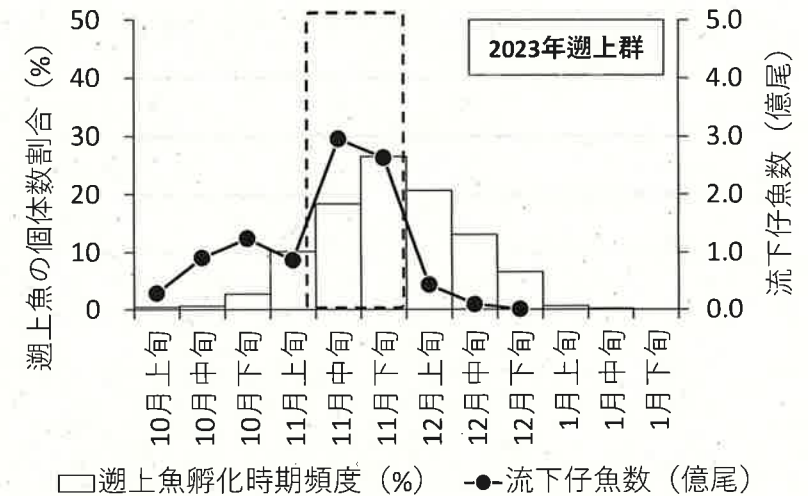
3) 遡上アユの体長と孵化日

③遡上魚の体長と孵化日（日野川天然アユを前年と比較）

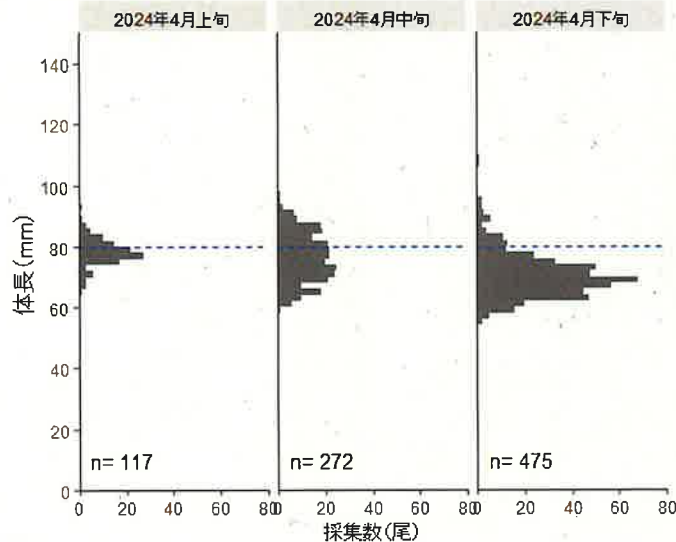
2023年



好遡上の主体は
11月中下旬生まれ！



2024年



小さいが
丸々している！

2023/11/10の降雨で11月中下旬のアユ仔魚が僅か

11月中下旬生まれはほとんど期待できないが、
それでも遡上数は200万尾を超えることが見込める

体長が小さいものがほとんどで遅生まれ群が主体？

昨年より小型個体の割合が高い⇒遅生まれ群が主体となっている？
(耳石を用いた孵化日の推定を現在進めている)